

桜樹地区タウンミーティング開催報告

日 時	令和2年8月30日（日）10：00～11：30
場 所	桜樹公民館2階 多目的ホール
参加者	【地域側：7人】桜樹地区長、楠窪自治会長、明河自治会長、公民館運営協力委員長、 婦人会、桜樹地区消防団長、民生児童委員 【行政側：4人】市長、桜樹公民館長、政策企画課長、公共施設マネジメント推進係長
次 第	1.開会 2.桜樹地区長 挨拶 3.市長挨拶・総合計画のポイントと事業説明（別添資料①） 4.テーマ「公共施設のあり方」に関する現状等説明(別添資料②)・意見交換 5.まとめ・閉会

概 要

桜樹地区長 挨拶	この会で西条市が抱える課題を地域の皆さんと市が共有し、共に考え話し合うことで、より魅力的で住みやすい愛着の持てるまちづくりに繋がるだろう。 この先10年・20年後の桜樹地区を想って、ざっくばらんなご意見をいただきたい。
市長 事業説明	<ul style="list-style-type: none"> 西条市は今後30年間で約3万人の人口減少が予測されている。 (約108,000人：2015年実績 → 約78,000人：2045年時点の人口推計値) 上記3万人の内、多くが15歳～64歳→働く世代がいなくなることで、地域や産業の課題増が予想される。 「人口減少・少子高齢化への対応」を最重要課題とした総合計画後期基本計画を策定。2045年時点の人口推計値 約85,000人を目指す。 優先目標を3つ設定。A)健康寿命の延伸、B)働きがいの創出・経済活力の維持、C)経営感覚のある行財政運営の実践。 市民・事業者の皆さん、行政がともに力を合わせて、将来世代にバトンタッチできる「持続可能な西条市」を実現しよう。
テーマに関する現状等	<ul style="list-style-type: none"> 西条市の公共施設は、同規模自治体の1.6倍(延床面積)あり、その半分以上が老朽化(築30年超)している。 公共施設マネジメントとは、施設の安全管理と財源確保を両立するための適正配置を実現することである。 人口減少・少子高齢化を踏まえ、今後の行政サービスにおいて、削減余地があるのは公共施設のみである。 建物は縮減しても機能やサービスの向上を図る「縮充」の発想で施設のあり方を見直すことが大切である。 市民のみなさんと情報を共有し、思いを共感し、新しい公共施設のかたちを考える共創を目指していきたい。

参加者の発言要旨

市の発言要旨及び対応

<p><国の補助金利用について></p> <p>国の補助金を使って建築する場合、利用目的に制限があると思う。縦割り行政故に、同じ地区内に似たような施設がいくつかある。国との調整はどうなっているのか。不要なものは廃止してもよいのではないか。</p>	<p>建築した当時は需要があったが、人口が減少し、利用実態も変わり、維持すること自体難しくなっている。施設のあり方を見直し、新しい形態に変えていく必要があると感じている。</p> <p>例えば同じ機能を持つ施設を共有する等、一元管理(集約・複合化)を行い、場合によっては補助金を返還することもあり得ると考えている。</p>
<p><施設の複合化について></p> <p>「世代間交流」など難しく考えるのではなく、もっと自然に皆が集まれる場所を作るという考え方でよいのではないか。</p> <p>例えば、老人福祉施設と保育園が同じ施設内であれば、孫たちが祖父母と交流できる環境も整うのではないか。</p>	<p>自然に2世代、3世代の交流が行われる状況を作ることが非常に望ましいと考えており、このような施設形態や運営方法も考えていかななくてはならない。</p>

参加者の発言要旨	市の発言要旨及び対応
<p><施設の統合・料金設定について> 所管が異なるかもしれないが、丹原地域にある有料の丹原体育館と(減免措置により)無料で使用できる農村環境改善センターは1つにまとめれば良いのではないか。 また、市外からの体育館利用者に対して、別料金を設定した方がよいのではないか。</p>	<p>今年度、一部の施設使用料・事務手数料の改定を行った。 市は、皆さんの税金で運営しているので、誰が考えても明らかにおかしい部分については見直していく必要がある。</p>
<p><学校の複合化について> 中川小・丹原西中では生徒数の減少により、各種行事における保護者の負担も増えてきている。運動会は合同開催しているが、清掃活動など行事によっては別々に行っているため、小・中学生の子を持つ親の負担は大きい。 今後中川小学校のあり方を考える際には、他の小学校ではなく、丹原西中との複合化を希望する。</p>	<p>当面、学校はしっかり守っていく方向で考えている。四国中央市では新宮小・中学校が併設型小中一貫校として運営されており、特区制度を活用して、早くから英語教育に力を入れていると聞いている。 今後の中川小と丹原西中のあり方について、そのような運営方法も選択肢の一つとして考えていかねばならない。</p>
<p><明河キャンプ場について> 現在、トイレ清掃等は地元住民がしている。市は今後もキャンプ場として使うつもりなら、更に管理面で応援してほしい。 できないのなら、キャンプ場としての利用はやめてほしい。</p>	<p>キャンプ場も築61年を迎え、地域の皆さんには維持管理でお世話になっている。今後の方針について、みなさんの声を丁寧に聴きながら検討させていただきたい。</p>
<p><消防団活動について> 地域に若い人材がいないことや、台風などの災害時に、自宅に高齢の父母だけを残して消防団活動に出ることが困難になってきた団員が多いことを踏まえ、この度中川分団へ統合する方向となった。今後もご協力願いたい。</p>	<p>団活動においては本当にお世話になっている。来年4月からは桜樹分団と中川分団を統合し、新たな形でスタートするという話を伺っている。 西条地区も加茂・大保木地区で同様の課題を抱えており、今回の桜樹・中川分団の統合がモデルに成り得ると思っている。 詰所の機能については、皆さんの安心につながるような運営の形を考えていきたい。</p>
<p><鞍瀬地域の簡易水道(共同給水施設)について> 集落で共同給水施設の管理をしてきたが、世帯数の減少により、対応に苦慮している。 取水口が度々目詰まりするので、市に修繕をお願いしたい。</p>	<p>人口減少・高齢化が進み、維持管理が困難になってきていることは承知している。上水道事業においては、徴収した水道料金を維持管理費等に充てている。 同様の考え方で、地域ごとに積み立てて、修繕や維持管理を業者に委託することもできる。大規模修繕については市の補助制度を活用していただきたい。 いずれにしても、丹原支所建設管理課へ相談いただきたい。</p>
<p><台風時の避難について> 警報時に避難を呼びかけても家から出ようとしない高齢者が多い。 もしものことがあってからでは遅いので、家族がもう少し真剣に考えてほしい。皆での呼びかけが必要ではないか。</p>	<p>市は、親戚等の所への早期の避難を呼びかけている。 身近な自治会長からの呼びかけは、緊張感・切迫感があるが、それ以上に家族からの呼びかけが効果的である。 山間部の避難については、引き続き検討していきたい。</p>
<p>まとめ</p>	<p><市長> 人口減少による影響がどのようなものか、このままでは公共サービスの提供がままならないということで、皆さんのご意見を聴きながら今後の事業についても丁寧に進めていきたい。公民館は一つのコミュニティの核だと思っている。地域の皆さんの心の拠り所としていきたい。 <桜樹地区長> 公共施設に関する市の現状や課題、取り組みをみんなで話し合えたことは良かった。今後の市の政策に反映されることを期待している。また、今回のテーマに限らず、桜樹の未来をより良いものにしていくために、住民みんなで話し合い、動き出すことが重要である。自治会としても、市と連携しながら皆さんの取り組みを後押しできるよう励んでまいらる。</p>

<当日の様子>

